RID2600 2022~2023 第36年度伊那中央ロータリークラブ週報



事務所:長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日:毎週火曜日 例会場:海老屋料理店 0265(72)2158 会長:平澤 理 副会長:藤澤健二 幹事:杉本德治 公共イメージ向上委員長:市川満貞



2022-2023 国際ロータリーのテーマ

IMAGINE ROTARY

2022-2023 RI会長 ジェニファー E. ジョーンズ <カナダ (オンタリオ州) >



第1641回例会 令和4年11月15日(火)

□ 点 鐘

12:30

□ ソング

真実を求めて 藤澤健二ソングリーダー

■ 会長談話

平澤理会長



今日11月15日は着物の日です。着物姿が似合う七五三の日にちなんで、着物の 魅力を広めるために制定されたそうです。

七五三は、三歳の「髪置きの儀」(健やかな成長を願う平安時代から続いてい た儀式で、三歳までは髪を剃っていたが、それが赤ちゃんから成長したとして、 それまで剃っていた髪をのばす。) 五歳の「袴着の儀」(五歳の男の子が初め

て正装である袴を着る儀式。男児から少年として社会の仲間入りを果たす。) 七歳の「帯解きの 儀」(ひもを縫い付けた着物を着ていた子供が、大人と同じように帯を結んで着物を着るようになる ことを祝う儀式。)という、もとは公家や武家が子供の成長を願って行った、三つの別々の儀式に由 来します。

江戸時代に五代綱吉が息子、徳松の袴着を祝った日にちなんで11月15日という日取りが定着。その 後、明治時代に「七五三」の名で現在の形になり、戦後、一般家庭にも広がっていきました。

乳幼児の生存率が低かった昔は「七つ前は神のうち」という考え方がありました。七歳までは神様 に守られて、何をしても罰が当たらない代わりに、魂が現世に定まっていないものとされていたので す。無事に七歳まで成長すれば、神様を祀る側の氏子として社会の一員になれました。昔も今も変わ らず「子供は社会の宝」なのです。

そして、このような「ハレの日」の食べ物といえば赤飯。昔から、小豆で赤く染まった赤飯の色に は魔除けの力があるとされていました。鎌倉時代後期には宮中献立について、節句など季節の節目の 行事で赤飯を食べたという記録が残っています。その後、江戸時代には、お祝い事に出される食べ物 として広まったそうです。

■ 幹事報告

杉本徳治幹事

幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告



・11月4日(金)信州大学留学生助成金贈呈式の報告

国際奉仕委員長の伊藤かおりさんと出席致しました。留学生は信州大学大学院総合 理工学研究科修士 1 年、国籍はスリランカの 37 歳、名前はヘーラタ ムディヤンセー ラーゲ ダッミカ マノージャ グナワラダナさんです。

・11月13日(日)第2回次期ガバナー補佐研修セミナーの報告 池田幸平次期ガバナー補佐

11月13日、13:00~17:00までオンライン研修に参加しました。

RI 第 2600 地区の現状と会員増強について関邦則地区研修リーダー、青少年・米山記念奨学事業について古川静男次期地区研修リーダー、R 財団とクラブ運営について折井正明ガバナーエレクトを講師にお迎えして研修を受けました。

会員増強、青少年育成基金、ロータリー財団等について勉強しました。折井ガバナーエレクトからはポリオ根絶を地区の基軸に据えたいとの表明がありました。ポリオ根絶に向け是非ご協力をお願いします。

・11月13日(日) RLIパートIIの報告 市川修次会員

11 月 13 日に塩尻市の「市民交流センター えんぱーく」において約 50 名の参加で RLI パートⅡが開催されました。今回は 9 月に行われたパートⅠを掘り下げるという ようなセミナーでしたが、パートⅠで感じたようにロータリーの事を知る以上に他クラブの状況を知る意味合いが大きい機会と再度思いました。

時間が過ぎる毎に本音が出てきて「長老支配」とか、会員が減少するクラブの多い中で希望者が多くて入会を制限しているクラブ、海外を重視して地元に対して全く奉仕活動を行わないクラブもあるようで、他クラブに比較して当クラブは活発に活動しているという印象を持ちました。1月にパートIII、3月にパートIVがありますが、しっかり勉強したいと思います。

・11月13日(日)伊那西IAC留学生交流会の報告 井上修青少年奉仕委員長



令和4年11月13日、伊那西高校インターアクトクラブと信州大学留学生との交流 会が午前10時から午後16時半まで、伊那西高校を会場に行われました。参加者は、 伊那中央ロータリークラブから平澤理会長、小椋文成青少年奉仕副委員長、池上幸平 委員、肥沼光彦委員、下井達典委員、田中洋委員、宮原英幸委員、伊藤かおり国際奉 仕委員長、小川秋實委員、井上の10名。伊那西インターアクトクラブから生徒5名、

顧問の飯田先生。留学生はスリランカから 3 名、パプアニューギニア、バングラデシュ、中国から各 1 名の合計 6 名。全合計 22 名の参加でした。

今回はインターアクト生が5名との事で、留学生やロータリアンの人数が多く、一人一人に対して十分な時間が取れていい機会になったと思われます。加えて、インターアクト生の事前の準備が何回も何回もリハーサルを繰り返し(私は参加せず、小椋さんに丸投げ状態でしたが)、準備万端の様相でスタート出来ました。準備が成功の予感をさせると言いますが正しくその通りでした。

中国からの留学生、「コウトウ」君が民族衣装で「琵琶」を持参頂き、個人演奏会をして頂きました。 出席して頂いたロータリアンの方々、本当にありがとうございました。何時にも増した充実した交流会に なりました。













※尚、今後、コロナの動静を見ながら、伊那西インターアクトの例会に(火曜日、金曜日 16時20分から)、ロータリアンの方々に出席して頂き、活動内容を見て頂いたり、アドバイスをして頂くように考えています。 2600 地区では異例な支援活動になります。 各位のご協力をお願い申し上げます。







〔海外留学生との交流会のあらまし〕

第2600地区インターアクト委員・伊那中央ロータリークラブ青少年奉仕員長 井上修

※伊那西高校インターアクト支援活動は平成9年に始まりました。活動は活発で、伊那中央ロータリークラブの一会員が、2600地区・青少年奉仕委員長・インターアクト委員長等を務め、現在も高校の例会(月2回~4回)の開催に何らかの形で接触を図っています。その一環として海外留学生交流会の実施を平成15年に発足し継続して行っています。今年は20回目を数えます。

事の発端は・・

平成 15 年台湾のインターアクト海外研修が「サーズ」で中止になり、京都の一泊旅行に変更された時に端を発するようです。長野県内より 10 校の生徒が参加されたようですが、伊那西高校の 4 名は、自分の学校の他の生徒にもこの研修を経験させてやりたいと、今回は京都であったが、海外研修の経験もさせてやりたいと強く思ったとあります。ではありますが、現実的には海外への研修は費用も日程も負担が大きく、地元にいながら海外を経験出来る手段を模索し、海外留学生との交流が平成 15 年に発足しました。日帰りの駒ケ根高原への一日の旅だったようです。言い出した伊那西高校生 4 人を初め、インターアクト生、留学生が多数参加されたようです。以来、20 年、延べ参加者 170 名を超え国は、中国、モンゴル、台湾、スリランカ、ベナン(アフリカ)、バングラデシュ等十数か国に及びます。高校生たちの他人を思いやる小さな願いが見事に結実している研修です。

・11月27日(日)伊那市カレー大作戦の案内 宮下健奉仕プロジェクト委員長



11月27日(日)カレー大作戦を開催します。海老屋料理店さんが最盛期の為、会場を「伊那まちBASE」に移しての開催と成ります。また、カレー提供が伊那中央ロータリークラブと成りますのでカレーを仕入れて配食させて頂きます。ご都合を付けて頂きご協力お願いします。

終了後、参加人数により委員会を開催させて頂きます。

また配食時間が15時からと変更と成りましたので、14時30分集合といたします。

・11月12日(土)伊那RCとの合同ゴルフコンペの報告 加藤篤ゴルフ部長



11 月 12 日土曜日に「晴ヶ峰カントリークラブ」にて伊那 RC 様との合同ゴルフコンペを開催しました。快晴の中でより懇親を深めることができました。

団体戦ですが、上位5名のグロススコアの合計で競い、伊那RC461に対して、伊那中央RC476と15打差をつけられて優勝できませんでした。腹の中で「やっぱり俺が出なきゃダメか!」と考えている方もいらっしゃると思いますが、来年度は優勝

目指して頑張りたいと思います。

次回のコンペは、年が明け 4 月を予定しております。皆様奮ってご参加ください。ありがとうございました。



・「ロータリーの友」11月号紹介

池上幸平ロータリー情報委員



表紙と裏表紙 今年度は多才な障害者アートをお届けします。

利用者のみんなが自由に塗り上げた段ボールを小さな『お家』にカット。屋根や窓を 丁寧に描く堀口さんには、捨てられたものを見た時点で、彼の眼には街が映っている んでしょう。

RI会長メッセージ

ロータリーの会員は自分たちの奉仕活動を黙ってするべきだと考えられたのはそう昔のことではありません。謙虚さは美徳であり、私たちは謙虚であり続けるべきといっています。今後数か月以内にこのコラムはロータリーの会員の皆さんのコーナーになる予定です。ロータリーの多様性、公平さ、インクルージョンに関する個人的なストーリーをここで発信してもらうようです。

ロータリー財団月間

大規模プログラム補助金

女性の尊厳を再認識しよう。過去2番目の大規模プログラム補助金として、「ナイジェリアの家族の健康に 寄り添う」に200万ドルを授与することを今年6月に発表がありました。

『「友」70年』1970~1980年代

職業奉仕という事

企業というものは、天下の金、天下の人、天下の土地を擁して事業をいとなんでいるのである。だから、その企業が事業活動を通じて、何かしら社会にプラスするものを生み出さなければ、その企業の存在の意義はないと言っていい。 松下幸之助

縦組人との出会い人とのつながり 中山理

「どうして日本が、第二次世界大戦の敗戦から立ち直り、世界の経済大国になったのか」。今後30年、いや50年は立ち直れないのではないか。ベトナムは苦難の時代が続きました。敗戦後の日本をロールモデルにして発展したい、どうやって敗戦から立ち直ったのか、そのノウハウを教えてもらいたい、というのが彼らの切実な願いだったと思います。日本の長寿企業についてお話をしました。今でいうところのCSR「企業の社会的責任」を当時から既に果たし、道経一体、道徳と経済を一体と考え企業活動を進めていた。倫理的な物差し、家訓、教訓というものを持つ企業として活動してきたのです。株主第一主義にこだわり、短期的な株価上昇を目的として、企業の利益の最大化のみを図り、社員を酷使する事を続けていると、一時的にはお金がもうかり、株価が上がっても、最終的には没落します。よき日本型の経営は企業のサステナビリティ、持続可能性を目的としているわけです。私共の会員の会社が提唱しているのと同じですね。

□ ニコニコボックス

◆平澤理 地区大会ご苦労様でした。会長・幹事会の夜はしっかり飲みました。

コロナウイルス感染警戒レベル 5 に加えて、医療非常事態宣言が発出されてしまいました。

いつになったら夜間例会ができるのやら。

先日は早朝より地区大会にご参加して頂きありがとうございました。また、伊那西高校 ◆杉本徳治

IACと信大農学部留学生交流会にご参加された皆さん、お疲れ様でした。

本日のクラブフォーラム、よろしくお願い致します。

早いもので 11 月もすでに半ばに入って師走がすぐそこまで来ているのを実感しています。 ◆田中真人

今年も年末家族例会などの忘年会が予定されていますが、コロナウイルスが再び拡大して

いる現状で今後どうなるんだろうとヤキモキしています。

11月12日に無事、伊那RCとの合同ゴルフコンペを開催することができました。快晴の中楽し ◆加藤篤

くプレーできましたが、残念ながら団体準優勝に終わりました。次回は4月を予定していま

す。皆様ご参加よろしくお願いします。

13日に、次期ガバナー補佐研修会に参加して勉強して来ました。 ◆池田幸平

伊那西インターアクトクラブ留学生交流会、無事終わりました。ありがとうございました。 ◆井上修

ロボティクススーツを使った伊那市実証事業、今日は日テレのカメラが入りました。 ◆肥沼光彦

◆熊谷健 先週土曜日、伊那ロータリークラブとのゴルフ交流戦は惨敗でした。ミジメでした。

> ちょうどその日、娘が彼氏を連れてあいさつに来ました。「何しに来た!!」と怒鳴ってや りたかったけれど、「よく来たね。娘をよろしく。」と言ってしまいました。11月22日に入

籍するそうです。

10月30日母の葬儀には、大変お忙しい中ご会葬、又、丁寧なご厚志をいただき感謝申し上 ◆向村祐治

げます。大変お世話になりました。本来なら直接ご挨拶申し上げる所、文章にて失礼致しま

す。

合同ゴルフコンペ伊那中央 RC で、優勝・準優勝・第三位に入ることができました。 ◆伊澤和男

宮澤友浩 伊藤好

■出席報告

会員数47名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席者25名 (内Zoom1名) 事前メイク2名 出席率65.85% 前回出席率 修正なし

■ クラブフォーラム 「米山記念奨学委員会」加藤篤米山記念奨学委員長



本年度の米山記念奨学委員会を市川修次副委員長とともに務めております委員長の 加藤です。本日はよろしくお願いいたします。

過日配布しました「米山記念奨学豆辞典」に米山記念奨学事業について詳細に書か れておりますので、既にご理解されている会員の皆様も米山記念奨学事業の現状を含 め一層のご理解を深められたと思います。

米山記念奨学事業は日本最大と言って良い外国人留学生の支援事業で、奨学生は勉学への意欲や人物面・ 学業面を面接試験を経て決定されています。今年度は898名、累計では22.875人の奨学生がおり、後日ロー タリアンとなられた方々もいます。

当クラブが所属する第 2600 地区の米山奨学生は今年度 18 名が選考されました。内訳は、女性 11 名、 男性7名です。

また、出身国別では、中国10名、ベトナム4名、マレーシア2名、スリランカ1名、台湾1名となって おります。大学別では、信州大学14名、長野県立大学3名、長野大学1名です。各留学生については、「月信」 10 月号から 12 月号に顔写真入りで紹介されておりますので、月信をご覧ください。

さて、この米山記念奨学生事業はロータリアンからの寄付金事業で成り立っております。普通寄付金と特別寄付金合計金額はここ数年 13 億 4 千万円程度で推移しており、第 2600 地区の個人平均寄付額は13,965 円で全地区第 19 位となっております。全国平均が 15,971 円ですから若干平均を下回っています。

また、特別寄付者割合は、全国平均 46.4%に対して 第 2600 地区は 24.6%と約 4 人に一人の割合になって おります。

当クラブの今期寄付目標は、会員一人当たり20,000 円で、47 名の会員がいらっしゃいますので、 総額940,000 円となります。



普通寄付として 232,500 円を支払いますので、寄付目標額には 707,500 円足りないことになります。この不足分を特別寄付にて集めたいと考えますので、一人当たり 10 万円で 8 名の方に寄付をお願いします。市川副委員長と共に寄付のお願いに伺いますので、何卒ご協力をお願い申し上げ、米山記念奨学委員会クラブフォーラムとさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

米山奨学事業の概要

- 日本のロータリー独自の事業 (日本全国34地区の合同活動)
- 日本で学ぶ外国人留学生の支援 (公益財団法人を設立し運営)
- 世話クラブ・カウンセラー制度 で交流を重視 "人を育てる事業"



□点 鐘

13:15

次回例会

11月29日(火) 点鐘/12:30 完全リモート例会

- ・クラブフォーラム「ロータリー財団委員会」
- · 例会終了後: 理事会